

飯伊地区 産業経済動向

No.554 2025/5
(7.6.25 発行)

 **飯田信用金庫**
IIDA SHINKIN BANK
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町 1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：紫陽花とりんご並木（飯田市通り町・6月1日撮影）	P 1
製造業 景況DIは前月から改善。一部に景況感好転の声もあるが依然マイナス圏	P 2
建設業 5月の公共工事は前年比減少。4月の住宅着工は前年比24%減少	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から悪化。幅広い業種で景況感悪化の声	P 5
特集 新卒者採用、新入社員に関するアンケート調査結果	P 6
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 11
「e-dash」サービスのご案内	P 12

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から改善。一部に景況感好転の声もあるが、依然マイナス圏

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス8.6で、前月から13.6ポイント上昇。翌月予測はマイナス14.3で、前月から27.4ポイント上昇。当月は電気・精密・光学分野で一部に好転の声が聞かれるなど、前月に比べて景況感は改善した。一方、産業機器・医療機器向けでは景況感悪化の声が多くあり、DIは依然マイナス圏にとどまった。先行きについては、機械製造、食品製造ともに、一部に好転見込みとの声が聞かれたが、全体では悪化見込みの声が多い。米国の関税政策については、先の見通しが立たないとの声が多いが、今のところ影響はないとの声も聞かれた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は減少との声やや多い。先行きについても、業者により増減分かれる。
- ☑景況感…… 当月、先行きともに景況感は業者により見方が分かれる。一部に好転を見込む声も。

[企業からのコメント]

- ・「FA事業は低迷していた受注に少しずつ動きが見られるようになっていたものの、依然不透明感が続く。車載事業に関しては、米国の関税政策の影響が大きな懸念材料となる」「トランプ関税のショックが続いていると感じる」
- ・米国の関税政策に伴う、取引先の生産減退も懸念される。

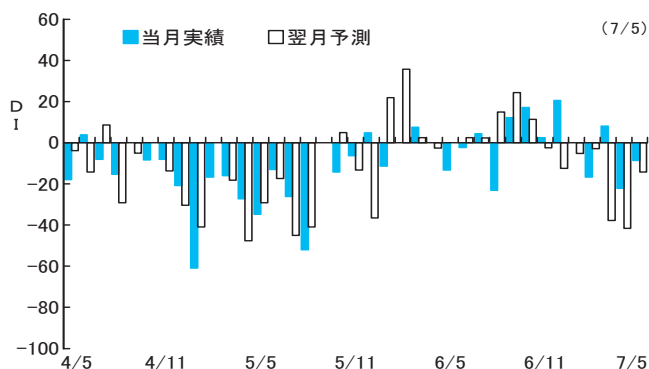
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 前月比の受注は業者により増減分かれる。販売は減少～横ばいで、減少との声が多い。先行きは、販売では減少を見込む声やや多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感はやや悪化～横ばいで、好転との声はない。先行きは横ばいを見込む声が多い。

[企業からのコメント]

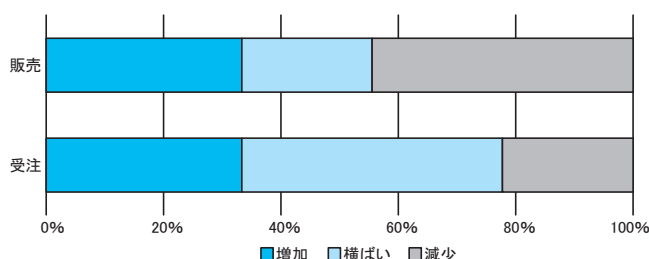
- ・「5月はゴールデンウィークの影響もあり、売上は伸びなかった。6月は注文がまとまり売上は回復する見込みだが、先行きは不透明。メイン取引先の需要で乱高下を繰り返す状況に変わりない」「注文書の先行発行を依頼しており、受注残高はやや増加しているが、大きく需要が増える様相は今のところない」
- ・「メディアでは半導体活況の情報を目にするが、AI関連の一部の企業の情報と思われる。当社においては在庫補充のためのスポット案件が主で、先行きの見通しは立たない。ただ前期に比べると売上は上がっており、取引先および市場の在庫がなくなってきた影響ではあるが、そろそろ本格的な回復を望む」「先月から大きな変化はないが、引き続きAI関連が牽引している。一方、パワー半導体系は厳しい状況。半導体全体で見ると成長が続いているので、エンドユーザーの稼働率が上がって投資意欲が再開してくるのを期待している状況」
- ・半導体業界は、各サプライヤーが厳しい状況になっている。他業種に営業をしたり、社内改善に取り組むなど、サプライヤーによって動きは様々だが、基本的には需要待ちの状況となっている。

飯伊地区景況DI（製造業）

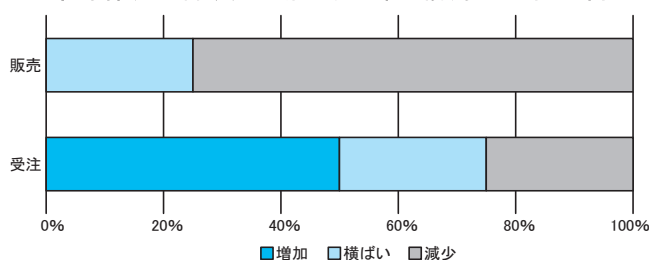


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
 景況に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
 「先月と比べて景況が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景況が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合

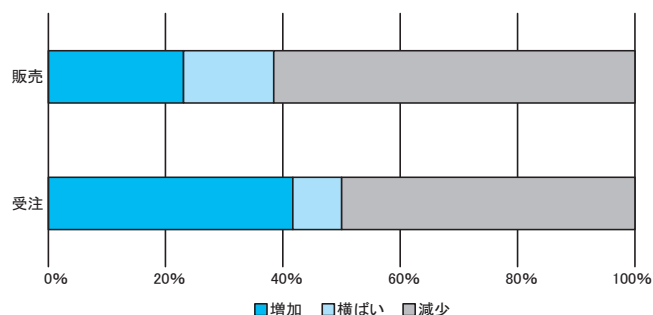


●産業機器、医療機器向け等機械部品

☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、減少との声が多い。先行きについても業者により増減分かれるが、減少見込みの声が多い。

☑景 況 感…… 当月は業者により見方が分かれるが、悪化との声が多い。先行きはやや悪化～横ばいで、横ばいを見込む声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

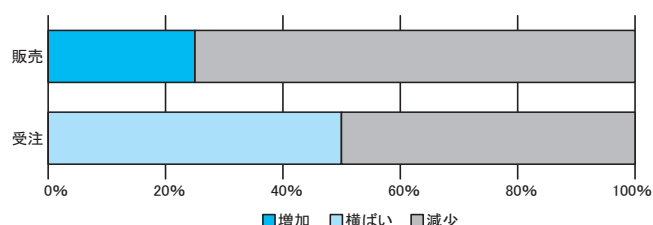
- ・「航空機・防衛分野は好調を維持しているが、民生品が全般的に受注が落ちており、今後も近々での戻りは厳しい状況である」「取引先全体でも仕事量が減少している」「加工依頼のロット数が少なくなった」
- ・「自動車開発においては、今のところトランプ関税の影響はないように感じる。引き続き、様子見ではないか」「トランプ関税により先の見通しが立たず、細々と営業を続けている状況」
- ・「全体的に製造業は受注が停滞して厳しい状況が続いており、今後も不透明」「相変わらず、製造業全般的に厳しい状況が続いている。半導体関係は一部持ち直しているようだが、年内は厳しいとの声も聞く」

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

☑売 上…… 菓子の前月比は減少～やや減少、先行きは横ばい～やや増加。食品全体では当月、先行きともに業者により増減分かれる。

☑景 況 感… 当月はやや悪化～横ばい。先行きは業者により見方が分かれる。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「大型連休の反動で受注減少、コストも増すなか、販売点数の回復がなかなか見込めず厳しい」
- ・「6月以降、受注増が長期的に見込めなければ、人員が余剰となる可能性がある」
- ・「4月から一部商品の値上げを実施」「原料の買い付け価格が上昇し、厳しさは増すばかり」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

☑売 上… 前月比はやや増加～増加。先行きは業者により増減分かれる。景況感は横ばいだが、次月以降はやや悪化を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・現在の受注・販売状況は前年同期と比較して安定して増加傾向を保っているが、トランプ関税の影響や方向感が不明。年末に至るまでの景気状況や消費者心理への負の影響を懸念している。
- ・前年度の販売と同等で、材料値上げも吸収できた。この先、販売が落ち込む見込みだが、利益確保はできそう。
- ・同業国内メーカーの一部には、人員（人材）不足が長期に亘り、生産力の著しい減少に納品出来ない状況も表面化している。

●上記以外の製造業

☑建築用金属製品… 販売は前月比、前年比ともに減少、先行きも減少を見込む。景況感は当月、先行きとも横ばいという。

☑自動車向け部品… 販売は前月比やや減少～横ばい、先行きは横ばい～やや増加。景況感については当月はやや悪化～横ばい、先行きは横ばい～やや好転。

☑印 刷…………… 販売は前月比減少、前年比はやや増加。当月の景況感は横ばいという。

[企業からのコメント]

- ・現在、どの地域も新規物件が少ない。首都圏では来年～再来年に着工する物件が多く、次の仕事のピークは2～3年後と思われる。それまでになるべく多く仕事を受注できるよう、機械設備や人材を含めて会社の体力の底上げを図っておきたい。
- ・「食品関係のチラシが、版下データ作成のみの仕事となってしまったものがある。今後は印刷を内製化すること」「印刷業界に関しては、あまり動きがない」「生成AIによる画像・イラストの作成が、印刷業界に大きくダメージを与えてきそう」
- ・世界はトランプ大統領の政策に振り回されている。

建設業

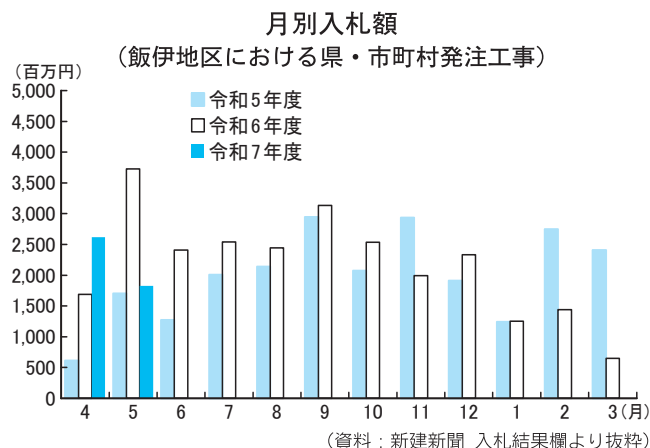
官公需

概況 5月の公共工事入札金額は前年比で51.0%減少、一昨年比では7.2%増加

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約18.3億円（6月15日調査時点）。前年に比べ51.0%減少、2年前との比較では7.2%の増加。

- ☑景況感…………… 当月は業者により見方が分かれるが、横ばいとの声が多い。先行きは横ばい～好転で、横ばいの声が多いが、悪化を見込むとの声はなかった。

- ☑原材料価格…………… 当月は横ばい～上昇で、下降との声はない。先行きについても同様。



〔企業からのコメント〕

- 「工事の発注件数も多くなってきた。同種の工事が一斉に発注されると人手不足で受注できないことが起こりそうである」「令和6年度は災害関連工事がない状況で、維持工事が中心だった。現在は新年度工事の発注を待っている状況」「大型連休により稼働日数は減少したが、業務高は堅調」
- 「あらゆる物価高が、ボディブローのように経営に影響を与えている」「経費率が上昇しており、今後も下がることはない見込み」
- 「施工社員が不足しており、中途採用に力を入れている」「人員については現状維持だが、今後の増員に向けて準備を進めている」「求人活動は継続して実施」

民需

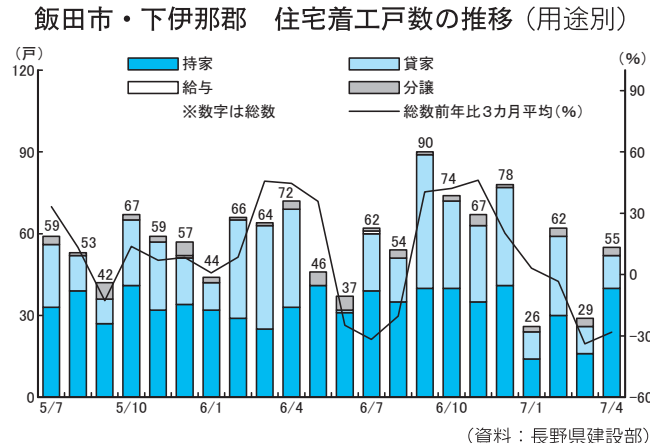
概況 令和7年4月の住宅着工戸数は55戸で前年比24%減少。

持家は増加も、貸家が減少し、4か月連続で前年比マイナス

- ☑住宅着工戸数… 当地区の4月の住宅着工戸数は55戸。前月比90%増、前年比では24%減。持家の戸数は40件で前年（33件）から増加。貸家は12件で前年（36件）から減少。分譲は3件で、前年（3件）と変わらず。

- ☑景況感…………… 当月は横ばい～やや好転で、悪化との声はなかった。先行きはやや悪化～横ばいで、横ばいの声が多い。

- ☑原材料価格…………… 当月は横ばい～やや上昇。先行きについても同様で、下降との声はない。



〔企業からのコメント〕

- 「新築住宅は建築基準法改正で確認申請が遅れて、着工できない。受注はあるが、工事が進まない状況」「リフォーム工事の引き合いは多い。新築住宅が少ないように感じる」
- 「新築住宅は年々減少してきており、ますます生き残りは厳しい。」
- 「トランプ関税によって、いろいろな企業の先が見えなくて、動けない。」

建設資材等

概況 5月の生コンの売上は前月比減少、前年比では増加。

骨材は前月比減少、前年比は業者により増減分かれる

- ☑生コン … 売上は前月比では減少、前年比では増加。

- ☑骨 材 … 売上は前月比では減少、前年比は業者により増減分かれる。

〔企業からのコメント〕

- 「5月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、発電所工事、治山工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の約4割。」
- 「一般公共工事発注は非常に少ない。リニア工事の生コン需要は工区によって差があるが、全体的には少し落ち着いた感じ。」

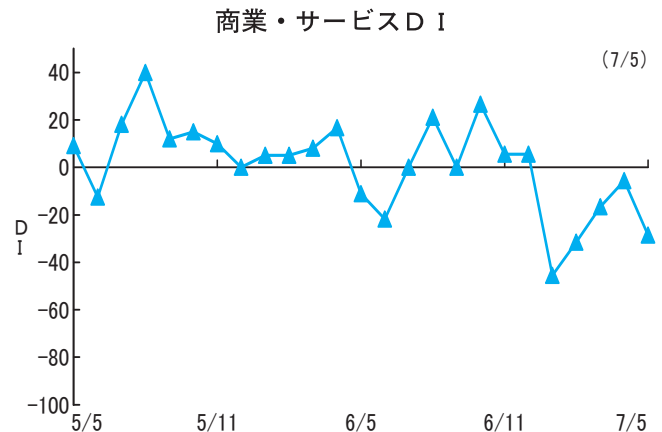
商業・サービス業

概況 景況DIは前月から悪化。幅広い業種で景況感悪化の声

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はマイナス31.3で、前月から25.7ポイント低下。

当月は、宿泊業の一部で景況感好転の声が聞かれたが、他には好転との声はなく、小売業、卸売業、飲食業など幅広い業種で景況感悪化の声が聞かれた。物価高の影響を指摘する声は依然として多く、特に米の高騰による消費動向への影響が大きいとの声が多く寄せられた。

次月以降も好転を見込む声は少なく、飲食業、宿泊業を中心に景況感悪化を見込む声が多い。例年、夏の観光シーズンは景況感が好転する傾向にあるが、6～7月の時期の需要減少が心配との声もあった。



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。景況感はやや悪化～横ばいで、好転との声はない

✓売上 … 前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。

✓景況感 … 当月はやや悪化～横ばいで、好転との声はない。先行きは横ばい。

〔企業からのコメント〕

- 野菜は値下がり気味、一般食品類は値上げが続いている。米は相変わらず不足しているが、備蓄米が出回れば価格が下がるかは不明。また、仕入量が増加するかも不明。
- 昨年の地域商品券の終了の反動で、売上が昨年対比で大幅に減少。

●卸売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれるも、増加との声がやや多い。

景況感はやや悪化～横ばい

✓売上 … 電設資材、青果、建築資材は前月比やや増加。食肉は横ばい、食品はやや減少。

〔企業からのコメント〕

- 野菜は、安定した気候により葉物野菜を中心とした高値はほぼ改善され例年並みの価格に戻った。5月も土物野菜の売上が良く、人参は入荷好調。野菜全体では入荷増、価格安。果実も、価格は昨年並みに落ち着いており、出荷終盤を迎えた苺は入荷量増。果実全体では入荷増、価格はやや安かった。
- 省エネ性能が高い商材への更新で需要は増加しているが、2026年4月以降は現行の産業用変圧器（トランス）がメーカーから出荷できなくなり、極端な供給不足が懸念されている。スケジュール調整も重要になるので、長期的な提案をしていきたい。
- 豪州産マトンの仕入価格上昇につき、6月より価格転嫁予定。米や野菜が高いと、肉も売れない。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業、宿泊業ともに業者により増減分かれる。

景況感も業者により見方が分かれるが、飲食業では悪化との声が多い

✓売上 … 飲食業、宿泊業の前月比は業者により増減分かれる。運輸業は前月比やや減少、前年比では横ばい。

〔企業からのコメント〕

- 「5月の売上は前年と比べて概ね横ばい。1～4月の累計では限界利益が前年より改善しており、仕入高に対する価格転嫁の効果が表われてきたと思う」「米などの物価上昇で、景気は悪化していると感じる。客数は減少しており、客単価も低い。宴会はあるが、一般客が減少している」「高齢者団体の昼利用など、コロナ禍前の行事が復活傾向にあり、今後の動向に期待」「売上が上がらず、人件費や仕入等の高騰が響く」
- 「春のナイトツアーシーズンが終わり、個人旅行の動きが悪くなってきた。修学旅行を含む団体旅行については、回復がみられた」「毎年、ゴールデンウィークと花桃の時期が終わると、夏休み前頃まで予約の動きが悪く売上が減少する」「市内ビジネスホテルは活況の様子で、他ホテルで断られた工事従事者の連泊依頼が増加傾向にある」
- コロナ前との売上対比は8割弱で、タクシー運行回数はいまだ7割弱。消費物価高に加え、先行き不安のために利用を控える方が相当数いると感じる。ただ、全てのものが値上げラッシュの中、タクシーの運賃も料金改定の時期に来ていると思う。
- 物価高による利益の低下は価格見直し効果で防げているが、固定費（特に人件費）の上昇により経常利益は落ちている。これ以上の価格転嫁は難しいので、シフト等をこまめに見直して固定費の上昇を抑えるように考えたい。
- インバウンドの受入が今後のカギになる。広域で取り組みながら魅力創り、仕掛け創りを考えていかなければならない。

－ 新卒者採用、新入社員に関するアンケート調査結果 －

しんきん南信州地域研究所では、当地域の事業者様の本年4月における高校、大学、専門学校等の新卒者の採用に関する意識や、来年の新卒者採用に関するアンケート（以下、「新卒者採用アンケート」）を実施しました（この中では、事業者様の賃上げに関する動向についても伺っています）。

また、本年4月に当地域で就職した新入社員の方を対象として、当地域で就職を決めた動機や、当地域で興味・関心のあるものなどに関するアンケート（以下、「新入社員アンケート」）も、昨年（飯伊地区産業経済動向No.542（令和6年5月）に掲載）に引き続いて実施しました。今回はその結果をご紹介します。

ご多忙の中ご回答いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1. 新卒者採用アンケート調査結果

I アンケート概要

- ・飯田下伊那地域の企業を調査対象として、郵送・メール・インターネットによる回答を集計
- ・回答総数 61（製造業33、建設業15、卸・小売、飲食、宿泊業、運輸業を含む商業・サービス業13）
- ・調査期間 2025年6月1日～6月20日

II アンケートの結果

●今年度新卒者の採用に関する認識

今年度の高校・大学・専門学校等の新卒者の採用について、「予定通り採用できた」「予定より少なかったが、採用できた」「予定していたが、一人も採用できなかった」「もともと採用予定はなく、採用しなかった」の内から一つ選択してもらった。

この中で、採用予定のなかった事業者は、全体では36者、59%となっており、2024年4月の同調査（63%）、2023年4月の同調査（64%）、2022年4月の同調査（67%）からはやや低下した。コロナ5類変更から約2年が経過し、人手不足が深刻となる中、当地域において新卒採用を実施する事業者の割合は徐々に増加傾向にある。

また、採用予定のあった事業者の中でみると、「予定していたが一人も採用できなかった」との回答が40%と最も多くなり、その一方で「予定通り採用できた」との回答は28%となった（2023年調査では採用予定のあった事業者のうち43%が「予定通り採用できた」と回答、2024年調査では「予定通り採用できた」との回答はゼロ）。

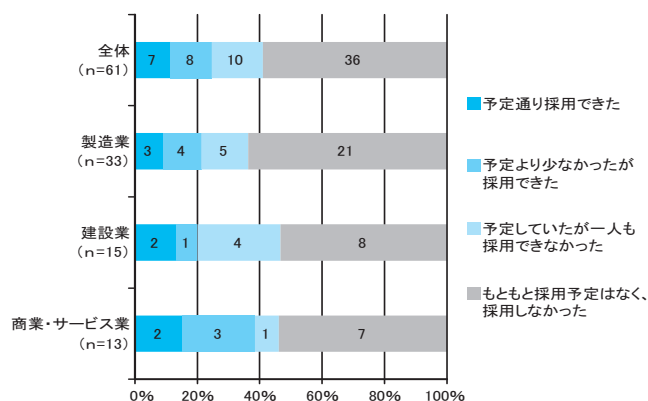
事業者の人手不足が常態化し、当地域においても新卒の採用を計画する事業者が増加傾向にある中で、一人も採用できなかった事業者を含めて7割超の事業者が予定通りの採用ができていないという、厳しい動向を感じさせる結果となった。

●来年度の新卒者採用の予定

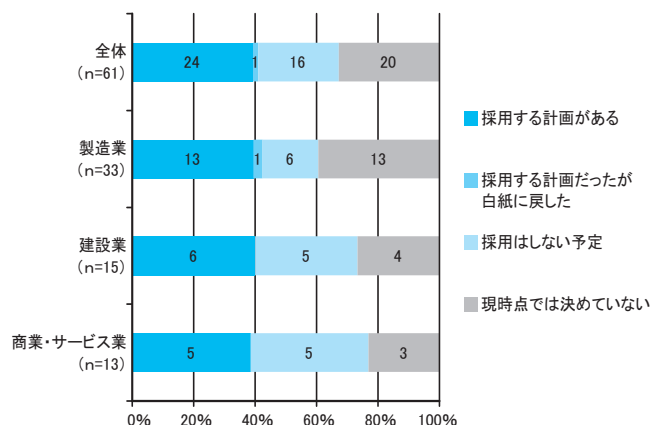
本調査では、来年の新卒者の採用についても、「採用する計画がある」「採用する計画だったが、白紙に戻した」「採用はしない予定」「現時点では決めていない」の内から一つ選択してもらっている。

この中で、「採用する計画がある」とする事業者は24者、39%（2024年調査・33%、2023年調査・38%）となっている。昨年と比較すると、「採用する計画がある」とする事業者の割合がやや増加しており、一方で「現時点では決めていない」とする事業者（20者、33%。2024年調査37%）の割合がやや減少している。今年度の新卒採用の動向と

今年（2025年4月）の、高卒・大学新卒者は、予定通り採用できましたか？



来年、高卒・大卒の採用予定はありますか？



併せて考えれば、新卒者の採用について前向きに検討している事業者が増加傾向にある可能性が考えられる。

事業者からは、「中途採用がメイン。また、中途採用でも第2新卒を採用・育成し、一人前に育つように指導している。昨年から高卒採用の求人を出し、今年が採用初年度として活動を進めたいと考えている」（製造業）、「現在、中途採用を適宜行っているが、募集してもなかなか人が集まらない状況は続いている。特に営業職に応募してくる人が全くいないため、採用の方法について色々と検討している」（製造業）といったコメントが寄せられた。

●過去1年における賃上げの動向

また、本調査では、過去1年間ににおける、事業者の賃上げ動向についても聞いている。「賃金を引き上げた」と回答した事業者についてはその賃上げ率について、「賃金を引き上げなかった」と回答した事業者についてはその理由について、それぞれ聞いている。

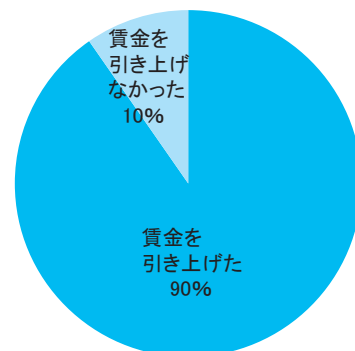
まず、「賃金を引き上げた」「賃金を引き上げなかった」との回答については、「賃金を引き上げた」との回答が90%となり、大多数の事業者がこの1年間で賃上げを実施しているとの結果になった。

次に、「賃金を引き上げた」と回答した事業者を対象に、賃上げ率について聞いたところ、「2%以上～4%未満」との回答が47%で最も多く、次いで「4%以上～6%未満」が30%、「2%未満」が18%、「6%以上」は5%となった。

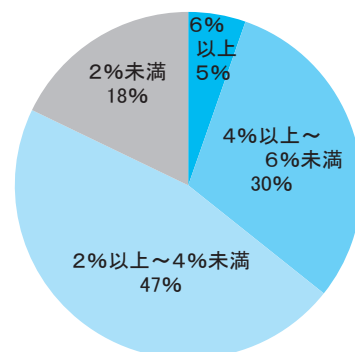
また、「賃金を引き上げなかった」と回答した事業者を対象に、その理由について「賃上げに見合う価格転嫁ができていないから」「同業や同地域内の他社が上げていないから」「今後の業績見通しが不透明だから」「売上が低迷、伸び悩んでいるから」「これまでに賃金を引上げ済みだから」「従業員がいないから（家族経営など）」の内から一つ選択してもらった。結果は、「売上が低迷、伸び悩んでいるから」とした事業者が半数で、「同業や同地域内の他社が上げていないから」との回答はなかった。

ここ数年、主に原材料高を起点とした物価上昇が多方面に及び、各事業者の経営環境も厳しさを増す中において、事業者の努力によって当地域においても賃上げが進められている状況が明らかとなった。

過去1年間ににおける、賃上げの動向



過去1年間ににおける、賃上げ率
(賃金を引き上げたと回答した先のみ)



2. 新入社員アンケート調査結果

I アンケート概要

- ・飯田信用金庫・飯田しんきんビジネススクラブ主催「新入社員研修会」参加者による回答を集計
- ・回答総数 50 (年齢：10代・17、20代・30、30代・3 出身地：飯田下伊那・39、飯田下伊那以外・11
卒業前の所属：4年制大学・9、短期大学・5、専門学校・16、高校・18、その他・2
就職前に暮らしていた地域：飯田下伊那・28、その他22)
- ・調査日 2025年4月23日

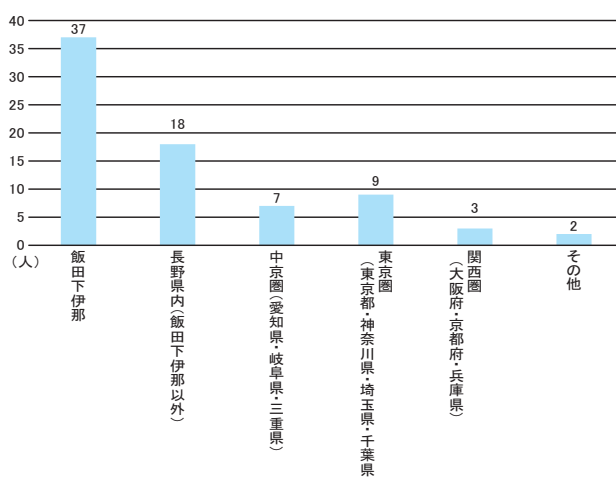
II アンケートの結果

●就職する会社を選ぶときに、他に候補となった会社のある地域

まず、今年の新入社員が就職する会社を選ぶときに、他に候補となった会社のある地域について、「飯田下伊那」「長野県内(飯田下伊那以外)」「中京圏(愛知県・岐阜県・三重県)」「東京圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)」「関西圏(大阪府・京都府・兵庫県)」「その他」の内から複数回答で聞いた。

最も多かったのは「飯田下伊那」(37人)で、次いで「長野県内(飯田下伊那以外)」(18人)、「東京圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)」(9人)、「中京圏(愛知県・岐阜県・三重県)」(7人)が続いた。

グラフ1 就職する会社を選ぶとき、他に候補となった会社のある地域をお教えてください。(複数回答)

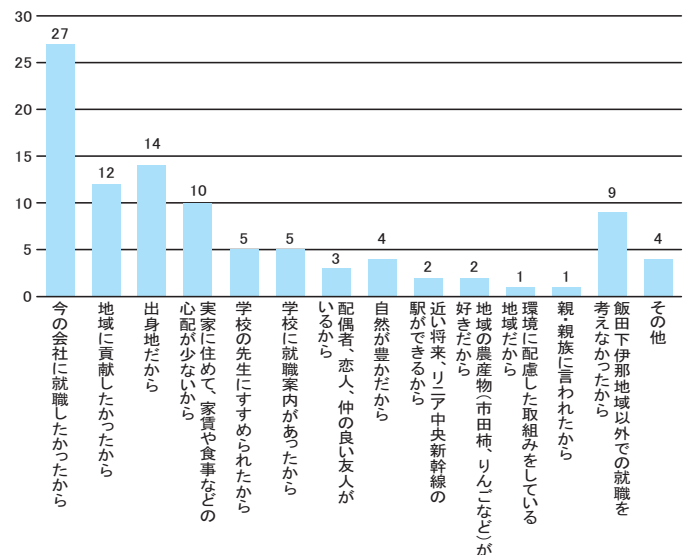


● 飯田下伊那で就職を決めた理由

次に、新入社員が飯田下伊那で就職を決めた理由について、「今の会社に就職したかったから」「地域に貢献したかったから」「出身地だから」「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」「学校の先生にすすめられたから」「学校に就職案内があったから」「配偶者、恋人、仲の良い友人がいるから」「自然が豊かだから」「近い将来、リニア中央新幹線の駅ができるから」「地域の農産物（市田柿、りんごなど）が好きだから」「環境に配慮した取り組みをしている地域だから」「親・親族に言われたから」「飯田下伊那地域以外での就職を考えなかったから」「その他」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「今の会社に就職したかったから」（27人）で、次いで「出身地だから」（14人）、「地域に貢献したかったから」（12人）が続いた。昨年調査では最も多かった、「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」（10人）は、今年は4番目だった。

グラフ 2 飯田下伊那地域で就職を決めた理由（複数回答）

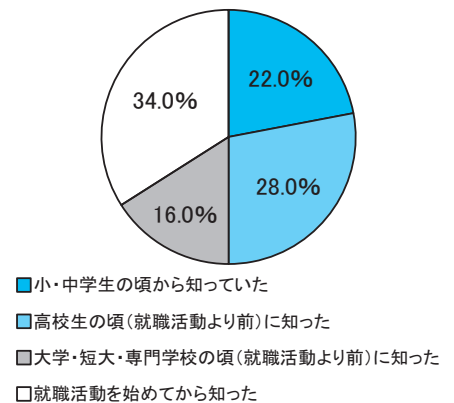


● 就職した会社を知った時期

続いて、新入社員が就職した会社を知った時期について、「小・中学生の頃から知っていた」「高校生の頃（就職活動より前）に知った」「大学・短大・専門学校の頃（就職活動より前）に知った」「就職活動を始めてから知った」の内から一つ選択してもらった。

最も多かったのは「就職活動を始めてから知った」（34.0%）で、次いで「高校生の頃（就職活動より前）に知った」（28.0%）、「小・中学生の頃から知っていた」（22.0%）、「大学・短大・専門学校の頃（就職活動より前）に知った」（16.0%）の順となった。就職活動前に知っていたとの回答が66.0%で、昨年（59.3%）よりも割合が増加した。就職を考え始める前に会社を認知してもらうことは、新入社員の採用における一つのポイントになるのではないかと感じている。

グラフ 3 就職した会社を知った時期（一つだけ）



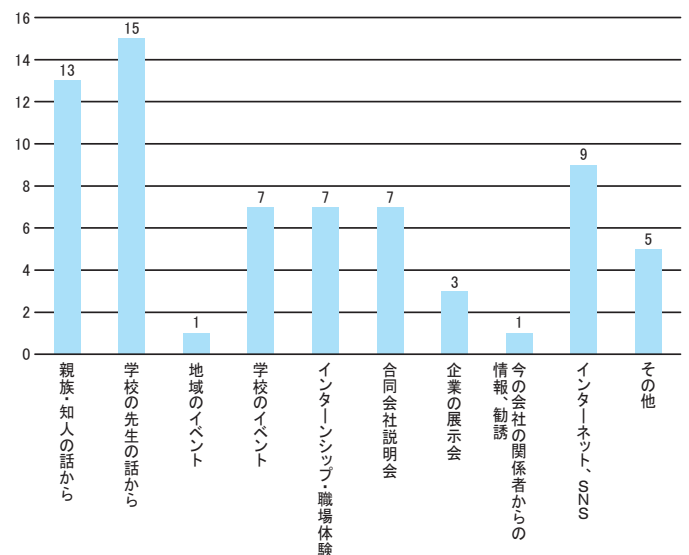
● 就職した会社をどのようにして知ったか

新入社員が就職した会社をどのようにして知ったかについて、「親族・知人の話から」「学校の先生の話から」「地域のイベント」「学校のイベント」「インターンシップ・職場体験」「合同会社説明会」「企業の展示会」「今の会社の関係者からの情報、勧誘」「インターネット、SNS」「その他」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「学校の先生の話から」（15人）で、次いで「親族・知人の話から」（13人）、「インターネット、SNS」（9人）が続いた。

昨年同様に、学校の先生や親族など、身近な人の話から会社を知ったとの声が上位を占めた。

グラフ 4 就職した会社をどのように知ったか（複数回答）



●就職した会社を選んだ理由

続いて、新入社員が就職した会社を選んだ理由について、「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」「会社の仕事内容が、自分の資格・能力を活かせると思ったから」「会社の仕事内容が、自分を成長させてくれると思ったから」「会社の給料が魅力的だったから」「休日が取りやすい会社だったから」「会社の雰囲気が良かったから」「会社の将来性に期待できるから」「会社で働く人の姿が魅力的だったから」「会社の建物・設備が魅力的だったから」「会社が通勤しやすい場所にあるから」「会社に親族・知人がいたから」「会社が地域貢献に取り組んでいるから」「会社が環境問題に取り組んでいるから」「その他」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」(30人)で、次いで「会社の雰囲気が良かったから」(29人)、やや離れて「会社の仕事内容が、自分の資格・能力を活かせると思ったから」(18人)が続いた。上位3項目については、昨年調査と同様であった。

●飯田下伊那で、興味・関心のあるもの

飯田下伊那地域で、興味・関心のあるものについて、「リニア中央新幹線の開通」「三遠南信自動車道の開通」「自然・環境」「人口減少・少子高齢化」「歴史・芸術」「農産物(市田柿、りんごなど)」「新しい商業施設(ショッピングモールなど)の誘致」「脱炭素への取組」「地域のお祭り・民俗芸能(りんごん、お練り祭り、歌舞伎など)」「地域企業の活動」「特に興味・関心のあるものはない」の内から、複数回答で聞いている。

「リニア中央新幹線の開通」(30人)が最も多く、離れて「自然・環境」(18人)、「農産物(市田柿、りんごなど)」「地域のお祭り・民俗芸能(りんごん、お練り祭り、歌舞伎など)」(それぞれ12人)、「三遠南信自動車道の開通」「新しい商業施設(ショッピングモールなど)の誘致」(それぞれ9人)が続いた。リニア中央新幹線の開通に関する興味・関心が際立って高いのは、昨年と同じ傾向であった。

●SDG s、脱炭素、カーボンニュートラルに対する興味・関心

本調査では、新入社員のSDG s、脱炭素、カーボンニュートラルに対する興味・関心についても聞いており、「ある」「どちらかといえばある」「どちらでもない」「どちらかといえはない」「ない」の内から一つ選択してもらった。

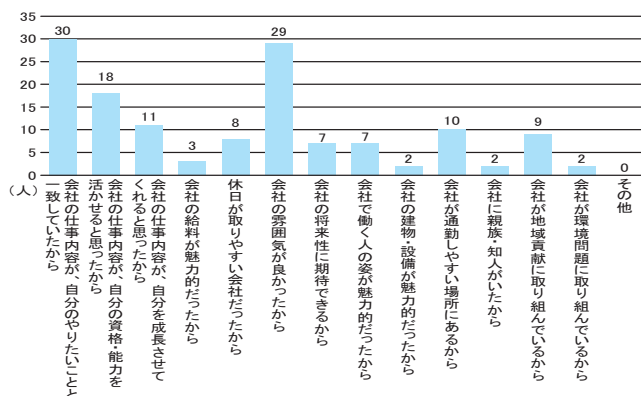
「ある」「どちらかといえばある」との回答が、「ない」「どちらかといえはない」との回答の2倍超あり、半数を超える新入社員がSDG sや環境問題に対する興味・関心を持っているとの結果になった。

●情報収集のために使用するSNSツール

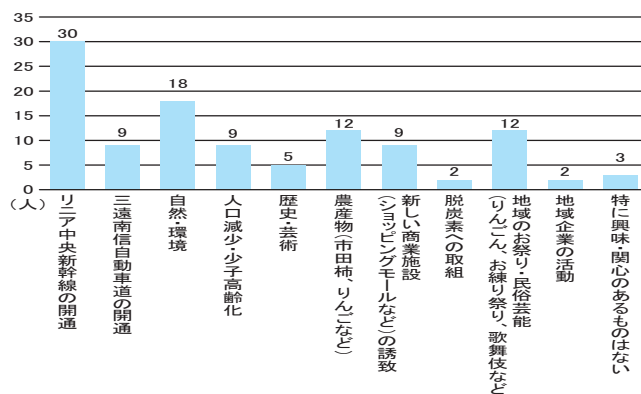
新入社員が情報収集のために主に使用しているSNSについても聞いており、「Facebook」「X(旧Twitter)」「YouTube」「Instagram」「TikTok」「Pinterest」「WhatsApp」「BeReal」「その他」の内から、複数回答で聞いた。

最も多かったのは「YouTube」(37人)で、「X(旧Twitter)」(35人)、「Instagram」(32人)、「TikTok」(21人)が続く。この上位4項目が多いのは昨年と同様だった。

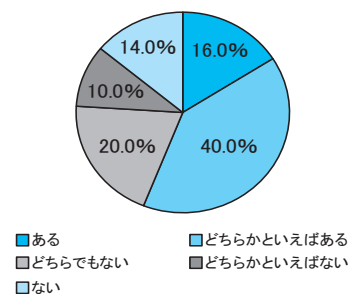
グラフ5 就職した会社を選んだ理由(複数回答)



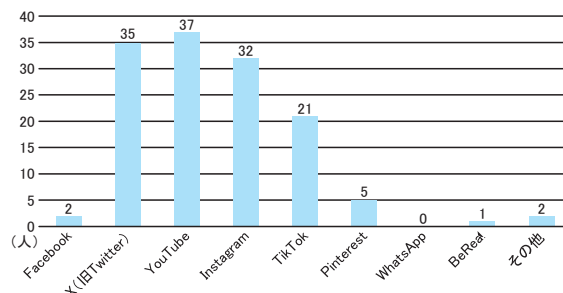
グラフ6 飯田下伊那地域で、興味・関心のあるもの(複数回答)



グラフ7 SDG sや脱炭素、カーボンニュートラルへの興味・関心(一つだけ)



グラフ8 情報収集のために、使用しているSNS(複数回答)



Ⅲ 新入社員が、就職前に暮らしていた地域による比較

●就職前に暮らしていた地域×飯田下伊那で就職を決めた理由

ここからは昨年同様に、新入社員が就職前に暮らしていた地域を「飯田下伊那」（以下、「飯伊」）と「その他地域」（以下「その他」）に分けて、その両方で回答率に差のついた項目について紹介する。

まず、飯田下伊那で就職を決めた理由（グラフ2）について、「飯伊」と「その他」で分けて示したのがグラフ9である。

「飯伊」の人は、「出身地だから」「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」「飯田下伊那地域以外での就職を考えなかったから」との回答率が「その他」の人に比べて高い結果となった。一方で「その他」の人は、「今の会社に就職したかったから」「配偶者、恋人、仲の良い友人がいるから」との回答率が高かった。

昨年の結果と今回の結果を並べてみると、「飯伊」の人は、「実家に住めて、家賃や食事などの心配が少ないから」「飯田下伊那地域以外での就職を考えなかったから」の項目が昨年、今年ともに高く、「その他」の人は「今の会社に就職したかったから」の項目が昨年、今年ともに高かった。

●就職前に暮らしていた地域×今の会社を選んだ理由

続いて、就職した会社を選んだ理由（グラフ5）について、新入社員が就職前に暮らしていた地域を「飯伊」と「その他」で分けて示したのがグラフ10-1、10-2である。

「飯伊」の人の方が回答率が高かった項目は、「会社の仕事内容が、自分の資格・能力を活かせると思ったから」「休日を取りやすい会社だったから」「会社の雰囲気が良かったから」「会社が通勤しやすい場所にあるから」であった。

一方、「その他」の人は、「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」「会社の将来性に期待できるから」との回答率が高かった。

昨年の結果と、今回の結果を並べてみると、「飯伊」の人は、「休日を取りやすい会社だったから」「会社の雰囲気が良かったから」「会社が通勤しやすい場所にあるから」の項目が昨年、今年ともに高く、「その他」の人は「会社の仕事内容が、自分のやりたいことと一致していたから」「会社の将来性に期待できるから」の項目が昨年、今年ともに高かった。

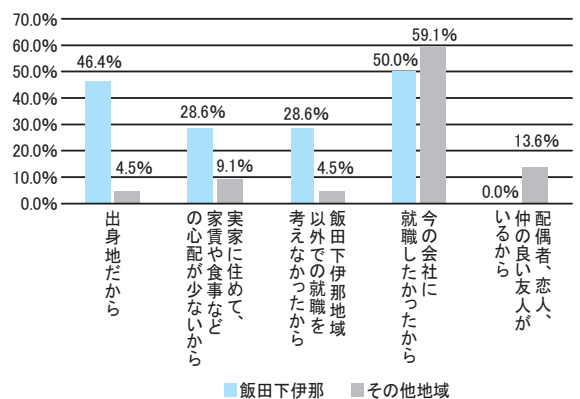
Ⅳ まとめ

昨年調査と今回調査で共通するのは、就職する地域を決める要因として、就職前に飯田下伊那に暮らしていた人は、実家で住める経済的なメリットを考慮している人、そもそも地域外での就職を考えていない人が多く、就職前に飯田下伊那以外で暮らしていた人は、就職する地域を決める要因として、今の会社へ就職したかったと考えている人が多い。

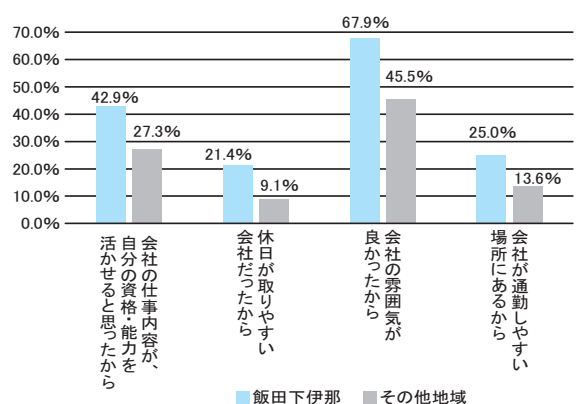
また、就職する会社を決める要因については、就職前に飯田下伊那に暮らしていた人は、休日の取りやすさや、通勤しやすい場所などの条件面や、会社の雰囲気に着目している人が多く、就職前に飯田下伊那以外で暮らしていた人は、会社の仕事内容や将来性などに着目している人が多い。

本調査は、昨年調査とほぼ同様の形式で実施しており、今回は就職前に飯田下伊那以外で暮らしていた新入社員の割合が昨年よりも高かったが、大きな傾向としては昨年と似たような結果となった。当地域を選んで就職した新入社員の考え方の傾向が、採用を考える上での一つの参考となれば幸いである。

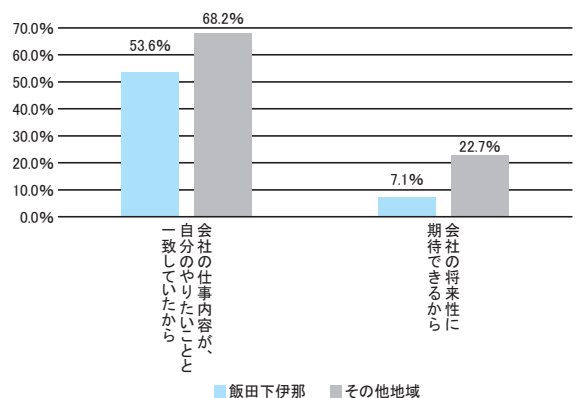
グラフ9 就職前暮らしていた地域×飯伊で就職を決めた理由（回答率に差のついた項目のみ抜粋）



グラフ10-1 就職前暮らしていた地域×今の会社を選んだ理由（就職前に飯田下伊那で暮らしていた人の方が高い項目）



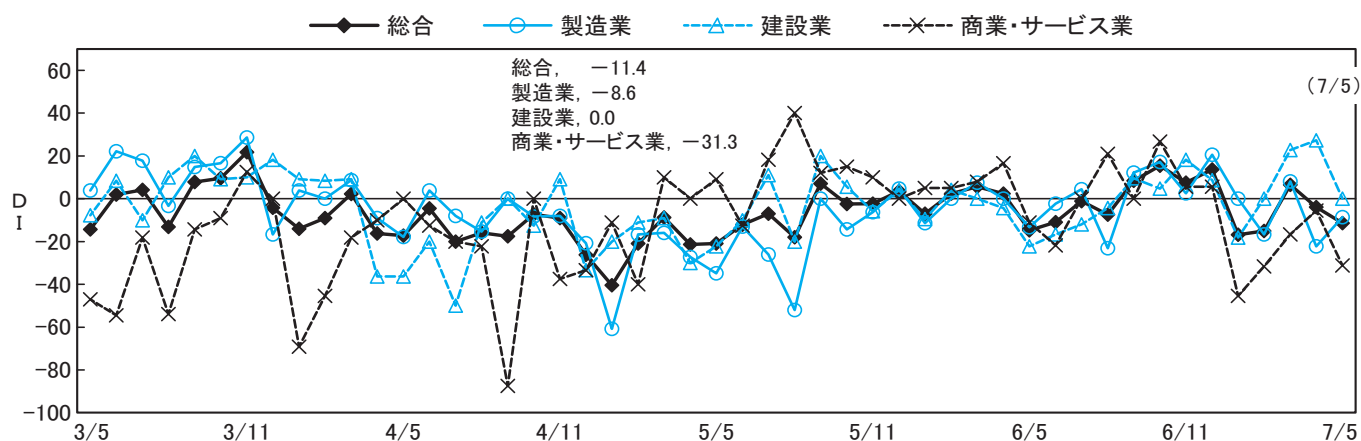
グラフ10-2 就職前暮らしていた地域×今の会社を選んだ理由（就職前にその他地域で暮らしていた人の方が高い項目）



（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 竹内 文人）

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県 内	9 件	(前月 8 件)	(前年同月 13 件)	(前々年同月 6 件)	(令和元年同月 4 件)
	飯 伊	0 件	(前月 0 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 0 件)	(令和元年同月 0 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (4月)		55 戸	89.7 %	△ 23.6 %	△ 3.5 %	7.8 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (4月)		1.33 倍	(前月 1.38 倍)	(前年同月 1.33 倍)	(前々年同月 1.51 倍)	(令和元年同月 1.29 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	1,764 台	△ 9.3 %	5.1 %	△ 4.8 %	△ 21.1 %
	中古車	744 台	△ 13.6 %	△ 4.9 %	11.7 %	6.7 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (4月)	新 車	3,308 台	△ 27.1 %	19.7 %	△ 8.9 %	△ 12.7 %
	中古車	1,787 台	63.6 %	0.9 %	0.7 %	3.7 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	100,230 台	5.7 %	1.7 %	1.8 %	△ 14.9 %
	出	100,278 台	6.7 %	2.0 %	0.1 %	△ 15.2 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	54,440 台	2.6 %	△ 1.1 %	△ 5.8 %	△ 31.8 %
	出	51,037 台	2.2 %	△ 4.1 %	△ 6.5 %	△ 32.0 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	15,549 台	△ 29.8 %	19.3 %	5.5 %	△ 38.3 %
	出	17,377 台	△ 38.0 %	41.8 %	14.3 %	△ 36.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	52,865 台	△ 2.7 %	3.6 %	8.1 %	10.9 %
	出	53,202 台	△ 3.4 %	2.1 %	7.7 %	15.5 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	45,145 台	6.2 %	7.5 %	14.1 %	— %
	出	45,200 台	4.3 %	6.7 %	19.9 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		123 件	△ 2.4 %	△ 3.1 %	1.7 %	△ 14.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		1 件	(前月 17 件)	(前年同月 10 件)	(前々年同月 10 件)	(令和元年同月 4 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	23,483 人	16.6 %	7.1 %	7.9 %	△ 16.0 %
	飯田～名古屋	14,516 人	8.5 %	5.6 %	6.3 %	△ 23.6 %
	飯田～長野	5,189 人	16.6 %	21.9 %	20.5 %	△ 47.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,680 人	8.9 %	3.1 %	10.6 %	△ 17.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,858 人	0.4 %	8.6 %	12.8 %	△ 15.9 %
	右回り	2,887 人	△ 6.8 %	12.3 %	10.2 %	△ 21.4 %

CO₂排出量の 可視化・報告・削減 サービスプラットフォーム



- ❓ 企業の脱炭素化って何？
- ❓ どこから取り組めば良い？
- ❓ 自社の取り組みをもっと発信したい！

e-dashは脱炭素経営の基礎から
自社に合った取り組みまで

伴走します

このようなお悩みの解決へ、

CO₂排出量の可視化

まずは電力・ガス・燃料系の請求書をスキャンして
アップロードするだけ。手間なく簡単に、正確に可視化。



準備するのはパソコンだけ



メール・電話・
オンライン面談でサポート



エネルギー使用量・コスト・
CO₂排出量を管理

CO₂排出量の開示

国際基準（SBT）に沿った削減目標の設定や、
目標対比の管理を行い、開示まで一気通貫に。

中小企業向け
SBT認定の取得支援

CDP、TCFDなどの
開示支援

省エネ法定期報告の
専用機能

CO₂排出量の削減

エネルギーコストの削減からCO₂排出量の削減まで、
e-dashと一緒にアクションプランや施策を検討し、実行。



省エネ化



再エネの導入



電力契約の
見直し



環境価値の
調達・活用

飯田信用金庫はe-dash(株)と提携し、
地域の事業者様の脱炭素への取り組みを応援します。
お問い合わせは地域サポート部
(0265-53-5811) へ